

ずい さん けん きゅう きょう いく き こう ニュース レター
水産研究・教育機構 NEWS LETTER

かわらばん

No.

131

2026.7

おとなな瓦版



世界一食べられているマグロ キハダ



ふーちゃんのトピックス

カツオの旅の記録は目の中に入った!?

バックナンバーは
こちらから



(プレスリリース:カツオの眼球の分析から回遊履歴を推定する手法の開発に成功 2026年2月18日)



キハダ

だい せ
第1背びれ

食べられている 世界一 マグロ

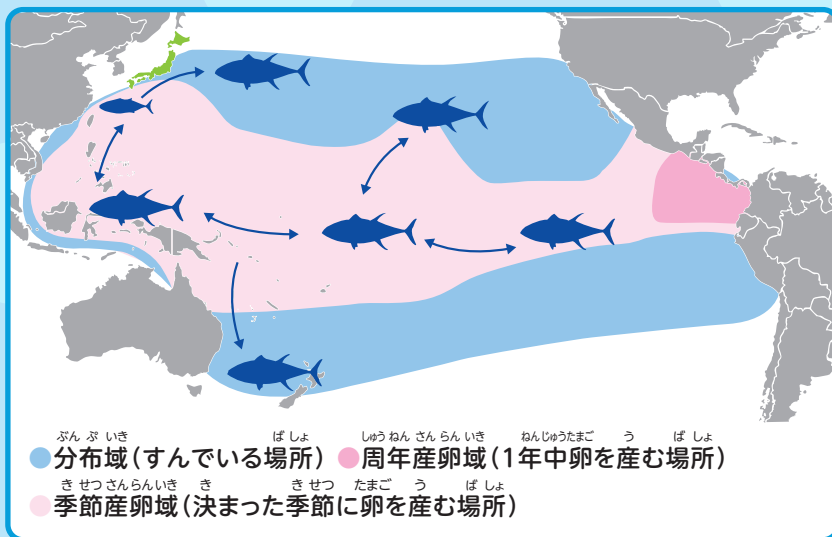
キハダってどんな魚？

「マグロ」と聞くと、どんなマグロを思いうかべますか？

じつは世界で一番食べられているマグロは、
このキハダです。

よく「キハダマグロ」と
よばれるけど、「キハダ」が
正式な名前だよ。

海を旅する キハダ



■図1 太平洋のキハダ分布図

キハダは流木などの漂流物に集まる習性があります。これは、漂流物のまわりには
キハダのエサとなる小魚が集まりやすいためだと考えられています。



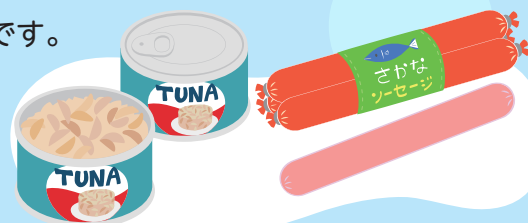
世界で食べられている ツナ缶

キハダの身は薄いピンク色で脂が少なく、さっぱりした味が特ちょうです。さしみや寿司だけでなく、
ツナ缶の原料にもなっていて、キハダは世界的に利用されている魚です。

そのため、キハダを減らさないようなルールを作ることが大切です。

世界中の研究者がキハダの生態と漁業の関係を調べて、

キハダを減らさないようなルールを考えています。



だい せ
第2背びれ

とく 特ちょうは、ひれ

かん じ か き はだ だい せ しり き いろ
キハダは漢字で書くと「黄肌」、第2背びれと尻びれがあざやかな黄色を
しているのが特ちょうです。大きくなるにつれて、ひれが鎌のように長く
の 伸びます。泳ぐのが速く、時速40キロほどで泳ぐことができます。

お
尾びれ

しょう り き
小離鰭

みず てい こう へ こう り つ
水の抵抗を減らし、効率よく
こう そく およ からだ
高速で泳ぐための体のしくみ

しり
尻びれ



■写真1 鎌のようなひれを持つキハダ

せい ちょう キハダの成長のナゾ?

さいだいやく
最大約2メートル

やく
約1.5メートル

やく
約1メートル

やく
約50センチ

か ちやく ご
ふ化直後
やく
約3ミリ

0

1

2~3

6~8(年)

■写真2 キハダの子ども(仔魚)

う ねん たいちょう
キハダは生まれて1年で体長50センチほど
になり、2~3年で体長1メートルを超え

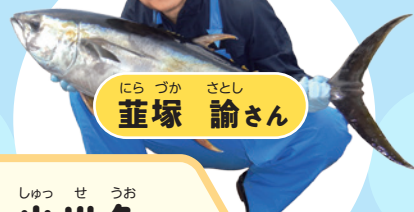
たまご う
卵を産めるようになります。おおくのキハダは
じゅみよう ねん かんが
寿命が6~8年と考えられていて、
たいちょう
体長は1.5メートルほどまで成長します。

さいだい き ろく たいちょう
これまでの最大記録は、体長2メートル、
たいじゆう
体重200キロの個体も確認されています(図2)。
さんらん ぼ しょ せき どう ふ ぎん
産卵場所は赤道付近です。

■図2 キハダの年齢と体長

か こ かいちゆう ただよ どうぶつ ちい さかな た せいちょう
ふ化した子どもは海中を漂いながら、動物プランクトンや小さな魚を食べて成長すると
かんが しゃしん るい くら せいちょう はや
考えられています(写真2)。キハダはほかのマグロ類と比べて成長がとても早く、
たとえばクロマグロは卵を産めるようになるまで3~5年ほどかかります。
なぜキハダの成長が早いのかはよくわかっておらず、今もまだ研究中です。

おしえてくれたのは?



にら づか さとし
葦塚 諭さん



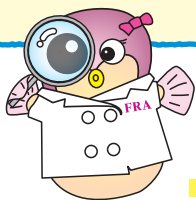
あんじいの豆知識 マグロの仲間も出世魚



き いろ
キ(黄色いひれ)+メジ(マグロの子ども)=キメジ

■写真3 キメジ

なか ま しゅつ せ うお
クロマグロ、メバチ、そしてキハダなどのマグロの仲間は、
せいちょう
成長するにつれて呼び名が変わる出世魚じゃ。小さなクロマグロは
「メジ」や「ヨコワ」、メバチは「ダルマ」などと呼ばれ、
ちい つうしやう よ しゃしん
小さなキハダは通称で「キメジ」と呼ばれるぞ(写真3)。
き いろ
キメジの「キ」は黄色いひれ、「メジ」はマグロの子どもという
い み しゃしん み くら
意味だといわれておる。写真1のキハダと見比べると、キメジは
まだ黄色いひれが鎌のように伸びていないことがわかるのう。



ふーちゃんのトピックス

キラーン

カツオの旅の記録は目の中にあった!?

(プレスリリース:カツオの眼球の分析から回遊履歴を推定する手法の開発に成功 2026年2月18日)



世界中で漁獲されているカツオ

日本の近くで漁獲されるカツオの多くは太平洋の中西部にすんでいたものと考えられています。しかし、どこで生まれて、どうやって日本近くまでやってきたのかはわかっていません。どのように移動するか調べるには、カツオに小型の電子機器をつけて記録する方法がありますが、長時間の記録はできないので、一生を通したカツオの移動は調べられませんでした。



水産研究・教育機構の研究

水産研究・教育機構は大学などといっしょに、カツオの目にある「水晶体」を分析することで、卵からふ化して漁獲されるまでの間に、どの海域を移動してきたか推定しました。

目の中の小さな部分から一生分の移動した記録がわかるなんて、不思議ですね。

カツオでうまくいったこの方法はキハダにも使えるかもしれません。キハダがどの海で生まれ、どんな旅をしてきたのかがわかれば、これからの漁業や海を守ることに役立ちそうです。

切って はって 作ってみよう! オリジナルペーパークラフト

作るときのポイント

- 1 しっぽから頭にむけて作っていきましょう!
- 2 頭は別で作って、さいごに体とくっつけよう!
- 3 頭と体は、上と下2カ所でのりづけしよう!

今回はキハダ!



A4サイズにプリントして作ってみてね



ありとあらゆることを知っているナゾのさかな仙人です



あんじい仙人のもとで修行している研究員です

アンケートのお願い



おさかな瓦版をより良くするためにアンケートを実施しています。ご協力をお願いします。
<https://x.gd/qRjuD>



おさかな瓦版 No.131 (2026年7月発行)

編集・発行:国立研究開発法人 水産研究・教育機構
質問の送り先・お問い合わせ先:広報課

〒221-8529 横浜市神奈川区新浦島町一丁目1番地25
GRC横浜ベイリサーチパーク 6階
TEL.045-277-0136 FAX.045-277-0015
ウェブサイト <https://www.fra.go.jp/>

令和8年度から、年4回の発行に変更となりました。

見てね! /



水産研究・教育機構 (FRA)
キッズページ
<https://www.fra.go.jp/forkids/>



YouTubeチャンネル!
ふらっとらぼ
<https://www.youtube.com/@fralabo>



表紙の写真



海の中を泳ぐキハダ
撮影場所:水産研究・教育機構
電庁舎海上いけす
撮影者:江場 岳史

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。